

市民アンケートの結果を公表します



市民アンケートは、市が導入している行政評価制度の外部評価として、施策の効果とニーズを調査・把握するほか、市民の意識や意見などを集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

今年度も満18歳から74歳までの市民700人の方に配付し、496人の方(回収率70・9%)から回答をいただきました。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

市民アンケートの詳細な結果は、市ホームページで公開しているほか、各図書館でも閲覧できます。



市ホームページはこちら

子育て支援の満足度

45.2%

前年を7・6ポイント下回りましたが、未就学児童から高校生までの子育て世帯では、プラス評価が50%以上となっています。ファミリー・サポート・センターや子育て世代包括支援センターの開設による、妊婦期から子育て期にわたった安心して出産・育児ができる相談・支援が推進されていることに加え、令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化による経済的負担の軽減などが一定の評価につながっていると考えられます。

来利用することになった場合に不安を感じる」といった声が上がっています。

市では、最寄りのバス停までの距離が遠い公共交通空白地域があることから、その解消策を検討していくとともに、通学用路線バスや交通需要に見合った路線の効率化による利便性の向上や、交通弱者に対する支援制度の拡充などにより、さらなる利用を促進していきます。

設利用予約の割合が高い結果となりました。年代による行政手続分野の違いも表れていることから、情報発信の仕方やサービスの拡充について検討していきます。

中心市街地の環境に満足している割合

58.1%

前年を8・4ポイント上回りました。これまでの取り組みにより、中心市街地ではハード整備が進んだことから、今後はこれらを生かし、市民の日常的な利用、いわゆる「まち使い」を高める地域づくりが求められています。

市では今年度、新たな中心市街地活性化プランを策定することとしており、市民の中心市街地での活動目的や来街頻度、居住に向けたニーズを把握し、次期プランの基礎資料として活用していきます。



1年間で芸術鑑賞に親しんだ割合

23.0%

前年を16・0ポイント下回りました。芸術鑑賞した人のうち、コモッセの文化ホールで鑑賞した人の割合は69・3%で、昨年とほぼ同じ割合です。文化ホールでの公演やイベントの多くが中止となり、また、外出や多くの人が集まる場に行くことを控えたことが影響しています。引き続き、新型コロナウイルス感染症の予防を図りながら、市民がさまざまな芸術に触れる機会の創出に努めていきます。

1年間にコモッセを利用した割合

50.6%

前年を5・5ポイント下回りました。年代別では、昨年最も多かった70歳以上が15・6ポイント減少しており、全体の減少率に大きく影響しています。利用しない理由として挙げられているのは、「コロナ禍」のほか、「目的がない」「興味が無い」と答えた人も多かったことから、多くの人に利用されるよう、今後もコモッセの利用方法やイベントの魅力などについて情報発信していきます。

市の施策について

市が現在進めている36分野の施策から、効果が得られているもの、強化すべきものを5つ選んでいただきました。

効果が得られていると感じる施策

①高齢者福祉の充実

介護予防施設の整備やデイサービス等の充実のほか、高齢者向けの体操教室の充実などが評価されました。

②快適環境の創出

昨年度の7番目から大きく順位を上げました。他市町村に比べて、ごみの分別が簡単であるといった声や、ごみ処理が的確に行われているといった声があり、快適な環境がつけられていることが評価されています。

③子育て支援の充実

昨年度から2つ順位を落としたものの、子育て支援施設の充実や保育サービス、託児サービスの充実が依然として現役の子育て世代から高い評価を得ています。

④水道水の安定供給

昨年の11番目から大きく順位を上げています。断水が少なく、安定供給がなされていることなどが評価されています。

⑤健康づくりの推進

健診などについて対象者への呼びかけや案内が丁寧に行われていることや、フレイル予防やシルバーリハビリ体操の取り組みが評価されています。

⑤消防・救急体制の充実

迅速に対応できる消防・救急体制が整っていることなどが評価されています。

もっと力を入れてほしいと感じる施策

①地域医療体制の充実

産婦人科の問題や、全体的な医師不足と診療科の少なさを不安に思う意見が多くありました。

②商店街の活性化

空き店舗の増加による店舗数の減少や、活気が感じられないことなどが主な理由として挙げられています。

③雇用の安定

若年層の流出を防ぐために、若者が安定して働けるための雇用や産業の創出を望む声が多くありました。

④地域産業の活性化

こちらは「雇用の安定」とほぼ同じ理由となっています。

⑤公共交通の確保

高齢になったときの免許返納後の移動手段を心配する声が挙げられており、数年先を見据えた公共交通の確保が課題となっています。



社会活動・地域活動の参加割合

58.0%

前年を2・0ポイント下回りしました。社会活動や地域活動が中止となったことや、参加を自粛した人が多かったことなどが減少の要因となっています。40代以上では例年同様に5割を超えており、大きなウエイトを占めています。

地域コミュニティの活性化を図っていくためには、若年層の参加が重要となり、すべての世代が活動に参加できるように仕組みを構築することが必要です。

住みぐちに満足している割合

50.8%

前年を3・0ポイント下回りましたが、半数以上は住みよさを感じており、高齢者福祉や子

鹿角に愛着を感じる割合

69.6%

育て支援が充実していることや、本市の美しい自然環境が守られているなど、住む人にとって快適な生活環境が提供されていることが要因と考えられます。

対して愛着を持っていることが分かります。愛着はふるさとへの誇りを生み、地域を盛り上げる雰囲気醸成や魅力的な地域づくりの礎となるものであり、これまで取り組みを進めてきた鹿角ブランドの推進や、ふるさと教育などの成果が表れたものと考えられます。